



Sunny Side Letter

ITC日本リージョン
カウンスルNo.4 2016-2017

目次

1. 会長メッセージ
2. レポート 第2回会合
- 3-4 スピーチコンテストを終えて
5. 教育「メンタリングについて」
- 6-7 クラブ訪問シリーズ
8. お薦めプログラム
9. インフォメーション
10. 第3回会合プログラム



カウンスル No. 4 会長
重中 祥子

年間テーマ

国際：Leading the way . . .

先頭を切って

日本リージョン：見上げて 共に進もう

カウンスル No. 4：会員の結束と思いやり

- 目標
1. 明日の ITC へ意識を改革する。
 2. 変わることに変わらぬことへの対応を考える。
 3. 和気あいあいと、会員であることに楽しさを見つける。

ゴールデンウィークの心地良い疲れが残っていた 5 月 7 日早朝、Susan Higley からのメールに、日本中の ITC メンバーに激震が走ったことと思います。

ITC に関して、私たちの感覚の中にはクラブやカウンスルそして日本リージョンのことがほとんどだったと思います。

でもでも、よもやまさか国際から「非営利組織にも、誕生、成長、持続、衰退、そして消滅する生命の周期があります」などという、理解し難い文言と共に解散の決議案が送られてくるとは、夢にも思っていませんでした。

R C L O の杉谷和代さんによる素早い和訳で驚愕的な詳細が判明するにつれ、カウンスル会長たちによる「なぜ、どうすれば」という疑問、悲鳴や提案がメールで飛び交いました。

日本リージョン役員会では、それらの言葉をしっかり受け止め、早々に「日本リージョンは存続させる」という決意がなされました。これにより会員たちの動揺は一応払拭されたものの、まだそれが法的に保証されていないことへの不安が心の底に揺蕩(たゆた)っています。

しかし、私はこのことはまさに「ピンチはチャンス」と思います。これはそれまで変えたいと思っても変えることのできなかつた慣習や慣行を破るチャンスともなります。

常日頃、いろいろな交渉事で、ピンチを招くことが多々あります。でもピンチの時こそ、冷静に物事を見られるようになることもあります。

「そこからこれからの ITC のビジョンを考え」「次に現代の社会において具体的に実現可能な組織に変更する」

皆さま、こんな時だからこそ、一致団結できると思われませんか。

レポート カウンスル No.4 第 29 期第 2 回会合

会合テーマ：メンバーシップ

開 会

2017年4月4日(火)、カウンスル No.4 第2回会合が、ホテルグランヴィア広島にて開催されました。出席者総数は14名の来賓・ゲストを含め117名でした。



インスピレーションは日吉令子岡山あくらクラブ会長が読み上げました。ビジネスで次期役員選挙が行われ、下記の5名が選出されました。

会長：成定正子(ひろしま)、第一副会長：前田利子(ひろしま)、第二副会長：時光育子(岡山)
書記：島村 忍(岡山)、会計：小倉千真理(岡山)



プログラム

午後の1つ目のプログラムは「第29期スピーチコンテスト」。日本語の部9名、英語の部2名のコンテスト出場しました。



どの審査員もが、「選考に悩んだ」とコメントされた審査結果は、次の通りです。

日本語の部

第1位 吉田瑠美子(ひろしま)

第2位 光成史子(福山)

第3位 木村清美(安芸)

英語の部

代 表 沖野直子 (安芸)

コンテスト後、入賞者にコンテストのための準備や工夫したポイントなどを

話していただき、本誌3～4ページに掲載しています。

2つ目のプログラムは、国際メンタリング委員である杉谷和代様(イースト神戸)をお迎えし、「メンタリングについて」というタイトルで教育を行っていただきました。この教育の要旨を本誌5ページに掲載しています。

閉 会

重中祥子会長が藪田邦子コーディネーター(安芸)を紹介。藪田コーディネーターは謝辞を述べた後、吉岡裕子コ・コーディネーター(ひろしま)、ホステスクラブのひろしま、安芸、ひがし広島の3クラブを紹介しました。

村上洋子第一副会長が、第3回会合の日時・会場を発表しました。

日時：6月28日(水) 会合 10：40～14：50

CMT 15：00～15：30

会場：ホテルグランヴィア岡山

有馬みどりひがし広島クラブ会長がクロージングソートを述べ、重中会長が閉会を宣言しました。時刻は15時26分でした。



第29期スピーチコンテストを終えて

言葉や身振りなどを使って自分の考えや思いを伝え、共感を得る。スピーチコンテストは、私たちが日頃 ITC で学んでいることを表現できる絶好の舞台ですね。とはいえ、多くの会員にとって、コンテストになるにはかなりの勇気や準備が必要です。今期、クラブ代表としてカウンスル No. 4 のコンテストに出場し、見事に入賞されたスピーカーの方々に5つの質問をさせていただき、準備のことや伝えたかった思いなどを伺いました。

- ① 準備する間、難しかったことは？
- ② 一番伝えたかったことは？
- ③ 伝えるために、どんな工夫をしましたか？
- ④ 審査員のどんなコメントが心に残りましたか？
- ⑤ ちなみに、原稿暗記の極意があれば教えてください。

日本語の部

優勝 吉田 瑠美子(ひろしまクラブ)

カテゴリー：鼓舞するスピーチ

論題：転機

題目：無駄ではない



- ① 怪我をしたこと、入院生活、人との触れ合いに絞り込み原稿を作成したこと。
- ② 「どんな苦難や災害に遭遇しても、心掛け一つで好転できる」と伝える工夫しました。
- ③ 導入部分は「今から、何をスピーチするのだろうか」と、耳を傾けてもらえるように「セリフ」を入れました。
最初の原稿は実行したスピーチの5倍くらい書き、削除を繰り返しまとめました。
- ④ 与えられた時間を有効に使う方が、更に伝わると思います。
「間」を大切に、話を急がないように気を付けると良いと思います。
- ⑤ 文章の頭出しはしっかり覚えておき、くくりの部分が映像として出てくるように何度か練習しました。原稿は必ず持って登壇し臨む方が、精神的にも落ち着きます。

第2位 光成 史子(福山クラブ)

カテゴリー：鼓舞するスピーチ

論題：出会い

題目：感謝



- ① 何をスピーチすればいいのだろうかという、内容探しに時間がかかりました。
- ② ITC の素晴らしさです。
- ③ 何の話をするのだろうか、まずは聴き手に関心を持ってもらうこと。
ITC が素晴らしい会だと、分かってきた理由。
最後に、ITC を今後どのように活用し、広めていくことができるかということ。
- ④ 落ち着いた話しぶりで、声にメリハリがあった。
言葉と言葉の、間の取り方がよかった。
- ⑤ この度は実体験の話ですので、繰り返し、繰り返し原稿を読むだけでした。

第3位 木村 清美(安芸クラブ)

カテゴリー：鼓舞するスピーチ

論題：責任

題目：見えないものが見えてくる



- ① 読み返す度に訂正箇所が見つかったこと。聴き手に分かってもらいやすい表現を探すのが、難しいと思いました。
- ② ITC で学んでいたからこそ、地域のリーダーを引き受けたこと。住んでいる地域に目を向け、互いに気にし合う感情を持つことが大切であること。
- ③ ITC で学んだことを生かしながら、地域のリーダーとしてやってきたことを具体的に話しました。
- ④ 私の題目の「見えて来たものは？」の質問を受け、私の表現とアピール不足の点を指摘されたと感じました。
- ⑤ 今回は、自分の経験のストーリーなので、A4 用紙 3 枚の筋書が頭に入っていました。何度も読み込むことで覚えていくと思います。

英語の部

代表決定 沖野 直子 (安芸クラブ)

カテゴリー：鼓舞するスピーチ

論題：Experience

題目：Challenge



- ① 時間管理と早口にならないよう、またパフォーマンスが長過ぎないように、気をつけました。
- ② 常に人生を楽しみながら、前向きに努力をし、諦めずに挑戦し続けていると必ず「想いは叶う」ということ。
- ③ 実際に行っている 3 つの事柄を簡潔に説明し、楽しさが伝わるように、パフォーマンスを加えました。
- ④ 私らしさがスピーチに出ていた。(元気で活発)
- ⑤ 過去の自分の体験と、今、実際に行っている習慣と夢を語ったので、暗記はしていません。但し、細かい(I)や(r)、(t h)の発音の練習はしました。



おめでとうございます！

そして、インタビューにご協力いただき、ありがとうございました。

構成 渡辺 遙子(ひろしま)

教育「メンタリングについて」(要旨)

国際メンタリング委員 杉谷 和代

私は 2011～2013 年、2013～2015 年の 2 期に渡り、国際メンタリング委員長を務めさせていただきました。メンタリングはグローバルには一般的ですが、日本ではまだあまり浸透していません。会員を増やすことが難しい今の時期にこそ、メンタリングが大事ではないかと思っています。日本リージョンの多くのクラブにおいても、メンタリングプログラムを採用していただきたく、機会あるごとにメンタリングの説明をさせていただいております。本日、カウンスル No. 4 の会合にお招きいただきましたこと、心から感謝申し上げます。



メンタリングとは、人の育成、指導方法の一つで、スキルや経験が豊富な人(メンター)とそうではない人(プロテジェあるいはメンティー)が一人ずつペアを組んで、スキルの少ない人の成長と具体的な能力獲得を目指すことを言います。言い換えれば、指示や命令によらず、メンターと呼ばれる指導者が、対話による気付きと助言により、プロテジェ本人と関係を結び、自発的・自立的な発達を促す方法なのです。

メンターの起源は 3200 年前にさかのぼります。紀元前 1200 年古代ギリシャ、オデッセウスが遠征に出掛けている間、自分の息子を育ててもらおうよう「メンター」という人に頼んだ故事から始まります。メンターさんがとても良い教育を行い、息子を立派な成人に育て上げた。これがメンターという言葉の起源と言われています。

ITC では、2005 年のボルティモア世界大会で初めてメンタリングが採用されました。それまではビッグシスターと呼ばれていたものが、今どきは男性会員もおられるので、この言葉は消え、メンターが採用されました。

では、メンタリングプログラムは実際にはどのように進めるのでしょうか。新しく A さんという人が入会されたら、役員会は B さんをメンターに任命します。この時留意すべきは、自分の知識を積極的にシェアできる人を選ぶことです。そして、例えば A さんが初めてプログラムリーダーの役割を与えられたとします。A さんはどのようにこの役を遂行すればいいのか、B さんに尋ねます。B さんは、「マスターマニュアルに掲載されているから、読み込んでください」と助言します。A さんは準備ができますから、おどおどしないで例会を迎えることができます。一方、B さんの方は、助言したことが正しかったかどうか、もう一度調べ直しますから、勉強になります。こうして双方が成長していく。つまり、メンタリングは ITC の質の向上に役立つ、Win-Win のプログラムなのです。

ちなみに、先ほど役員がメンターを任命すると言いましたが、例えば、議事法を個別に学びたいと思う会員は、議事法に精通した会員にメンタリングを申し込み、指導を仰ぐこともできます。ホームページに申し込むためのフォーム¹が掲載されていますので、活用してください。同じく「メンタリング 10 の秘訣」²という資料も掲載されています。こちらも参考になさってください。

1 ITC 日本リージョン→会員ページ→ITC 国際→メンタリング委員会

2 ITC 日本リージョン→会員ページ→資料→Ten Tips : 10 の秘訣 8. メンタリング 10 の秘訣

報告 米門 公子(ひろしま)

他クラブ訪問

岡山あくらクラブ27周年記念例会

第6回チャリティ茶会

日時：4月19日(水)10:30～15:30

さわやかな4月、岡山あくらクラブのチャリティ茶会を訪れました。会場は岡山城址にある林原美術館。立派な長屋門をくぐり、館内に入ると、クラブの皆さんが着物姿で準備の最中。今回のテーマは「花」、会場に牡丹などの花がいっぱい飾られ、華やかな雰囲気にも包まれ、この季節にふさわしい会でした。

日吉令子会長は冒頭の挨拶で「2011年3月の東北震災後、やむにやまれぬ気持ちから、私たちができることは何だろうと皆で考え、チャリティ茶会を始めて、今年で6回を迎えました。去年の熊本地震の後には、東北だけでなく熊本の支援もしています」と話されました。



講演は、陶芸家渡辺 篤氏が「備中青瓷について」と題して、中国の青瓷（せいじ）の歴史、備前の土・ベンガラ・高梁川の柳の木灰など岡山産にこだわって作陶されている備中青瓷について熱心に話してくださいました。ご自身の作品もお持ちくださっていたので、内容がよく理解できました。

続いて、深本晴美会員による八雲琴の演奏が流れる中、煎茶のお点前が行われ、おいしいお煎茶をいただきました。昨年までは仙台から取り寄せたお菓子、今年は熊本から「松風」を取り寄せたとの説明もあり、皆さんの被災地に寄せる想いに感動しました。

お昼は、美術館の新緑が美しい庭で、クラブで予約して下さっていたお弁当をおいしくいただきました。その後のギャラリートークでは、所蔵の絵画や工芸品の説明をしていただきながら、作品を鑑賞しました。

第1回のチャリティ茶会は2012年3月28日、岡山後楽園で開催されたとお聞きしました。今回の第6回まで継続されているのは、岡山あくらクラブの皆さんの想いの深さと総合力の賜物だと思います。

日本の伝統文化を五感で感じることでできる良い機会です。次回の参加をお薦めします。

報告 萱島 頼子(安芸クラブ)



他クラブ訪問

九州クラブ5月例会

日時: 5月17日(水)11:30~15:30

創立40周年記念例会 テーマ「感謝の心を花束に」



1977年7月、日本リージョン9番目のクラブとして認証された九州クラブが40周年を迎えられました。この伝統あるクラブの記念すべき例会に、わくわくしながら出席させていただきました。

大野加津子会長は冒頭の挨拶で「私たち一人一人の感謝の気持ちをどうすれば皆さまにお伝えできるかと、暗中模索の中、準備をしまりました」と話されました。続いて、土田美奈子第二副会長が、ゲストそして九州クラブ12名の会員を紹介さ

れました。皆さんの顔はこの日を迎えた喜びに輝いて見えました。



来賓挨拶のトップバッターは中野知子日本リージョン会長。お祝いの言葉の後「ITC解散の決議案が出されるとい報に接し、驚かれていますことでしょうか。しかし、ITCの根幹を考える貴重な機会であり、共に前に進んでいくことが大切だと思う」と力強く話され、不安の最中にいた私たちはほっとしました。特別スピーチをされた高木清子前日本リージョン会長は、お好きな書物の中の「ことごとくよろし」という言葉はまさに個性豊かな会員が集うITCにぴったりで、魅力であると話されました。



祝宴の準場の間に、溝部佳子会員が日本舞踊を披露してくださいました。そしていよいよ、西村みつ子日本リージョン次期会長の乾杯の音頭で祝宴が華やかに始まりました。



午後のメインプログラムは、島田稔前NHK文化センター大分支社長をリーダーにお迎えしてのワークショップ「スピーチを楽しもう」。テーマ「口紅」が出され、テーブルごとに内容を話し合い、代表が発表するというものでした。まるでスピーチの団体戦のようで、盛り上がりました。

津軽三味線鑑賞の後、アトランダムに指名されるショートスピーチで、会場はさらに和やかムードに包まれました。その後サプライズが待っていました。ゲスト全員に記念品が贈呈されたのです。九州特産品の竹を使った美しい「箸」でした。

プログラムは次々と進み、元九州クラブ会員でITC終身会員の中村美奈子さんが、クラブ創設の頃の話がされました。当時はまだ、現在のように資料が整っておらず、大変だったようです。

永嶋順子記念例会委員長の「感謝の心を花束にしてお贈りします」という謝辞の後、西村節子会員が心にしみ入るクロージングソート述べられました。その余韻が残る中、大野会長の閉会宣言で記念すべき例会は締めくくられました。

報告 米門 公子 (ひろしま)



お薦めプログラム 「ひろしまクラブ 評価コンテスト」

ITC の学びの中でも難しい評価について、各クラブとも工夫して取り組んでいると思います。今回は4月20日の例会で行われた、ひろしまクラブのプログラム「評価コンテスト」をご紹介します。このプログラムの成功のポイントは、事前の準備をしっかりと行き、各自が役割を十分に把握しておくことです。

評価コンテストとは

スピーカーがコンテストになるのではなく、評価者がコンテストになるコンテストです。評価する際の技術や感覚を磨くのに役立つよう、発案されました。

手 順

1. スピーカーを一人決めます。スピーカーはコンテストの前に、クラブ会員にそのスピーチ内容を発表することは許されません。スピーカーは5分～8分のスピーチを行います。この時、全員でスピーチを聞きます。
2. コンテストはクジを引き、発表（評価）の順番を決めます。コンテストはページの案内で別室に移動し待機します。評価が先に行われたものに影響されないようにコンテストは部屋の外にいます。
3. ページの案内で1番目のコンテストが入場します。プログラムリーダーによる紹介後、1番目のコンテストが（3分～4分位）スピーチの評価をします。タイマーは3分でライトを点灯させます。4分経過したらベルを鳴らし、発表を止めます。コンテストはそのまま会場に残り、自席に戻ります。
4. 2番目、3番目・・・とコンテスト（評価者）は順番に、発表（評価）します。
5. すべてのコンテストの発表（評価）後、タイム報告があります。
6. 審査員は所定の用紙を用いて審査します。審査員が順位を投票し、テラーが集計します。
7. テラーの集計が終わり、1位のみ発表し、表彰します。
8. 3人の審査員は評価ポイントなど、それぞれ3分間のコメントをします。



出典：ひろしまクラブ第34期プログラム委員会 評価コンテスト
報告 萱島 頼子(安芸クラブ)

インフォメーション

★おめでとうございます！

日本リージョン第35期スピーチコンテストで、カウンスル No.4 から出場されたお二人が輝かしい成績を収められました。

日本語の部 第1位 吉田 瑠美子さん(ひろしま)
英語の部 第2位 沖野 直子さん(安芸)



★カウンスル No.4 第30期第1回会合開催要項決定

日時：2017年10月27日(金)

会場：瀬戸内海汽船「銀河」(広島港から宮島厳島神社・大島居沖までの往復クルーズ)

カウンスル No.4 第29期に入会された新会員の皆さんです。入会の動機や今後学びたいと思っていることなどをお尋ねしました。

<div style="text-align: center;">  <p>佐野 由美 (ひろしまクラブ)</p> </div> <p>入会して良かったと実感したのは、今まで知らなかった世界に出会えた瞬間です。幅広い年代の方とのコミュニケーションを楽しみにしています。</p>	<div style="text-align: center;">  <p>森山 博子 (福山クラブ)</p> </div> <p>どんなことでも学びたいと思っています。特にマナーや席次のことなどを勉強したいです。会合が月1回なので息抜きになりますし、ホテルの昼食もおいしくて楽しみです。</p>	<div style="text-align: center;">  <p>占部 妙子 (福山クラブ)</p> </div> <p>友人に誘われ、6月に入会したばかりです。使われている用語や例会の流れなど、まだよく分かりませんが、会の雰囲気慣れ、自分の学びを見つけたいと思っています。</p>
<div style="text-align: center;">  <p>磯崎 久美 (岡山クラブ)</p> </div> <p>ITC の会員として共通のテーマを持ち、考えて、伝え、ご指摘を受け、考え直したりと、自分自身を客観的に見つめることにつながられたらと思っています。</p>	<div style="text-align: center;">  <p>中川 美登里 (岡山クラブ)</p> </div> <p>例会にゲスト参加させていただき、自分のコミュニケーション力の無さに気付き、勉強したいと思いました。ユーモアのある会話ができるようになりたいですね。</p>	<div style="text-align: center;">  <p>平井 竜次 (安芸クラブ)</p> </div> <p>決められた時間内に自分の意見をまとめ、発表できるスキルを向上させたいです。自分とは異なる環境におられる方々との意見交換も楽しみにしています。</p>
<div style="text-align: center;">  <p>岩本 八智子 (安芸クラブ)</p> </div> <p>皆さまの生き生きした活動に接し、自分にも何かできそうな気がして入会しました。多くの人と積極的にコミュニケーションを取ることができるようになりたいです。</p>	<div style="text-align: center;">  <p>行武 かおる (安芸クラブ)</p> </div> <p>ITC の場で、いろいろな方にお会いし、考え方やアイデアに触れ、ブラッシュアップしたいと願っています。自分のために時間を使うことの大切さにも気付かされています。</p>	<div style="text-align: center;">  <p>山本 タカ子 (安芸クラブ)</p> </div> <p>人の話を聞き、伝えるということを学びたいです。入会して良かったのは人との出会いと、今まで注意を払わなかったことに、注意を向けられるようになったことです。</p>

編集後記

取材へのご協力や原稿提出など、編集室からのさまざまなお願いにご対応くださり、ありがとうございました。おかげさまで、今期最終号を迎えることができました。心より感謝申し上げます。

編集：米門公子・渡辺遙子(ひろしま)、萱島頼子(安芸)

